

# 家畜衛生だより 平成27年9月号

紀北家畜保健衛生所 電話 073-462-0500  
紀南家畜保健衛生所 電話 0739-47-0974  
紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所 電話 0735-58-1481

## ◆◇ 悪臭対策について ◇◆

ようやく暑さも和らぎ、人にとっても家畜にとっても過ごしやすい季節がやってまいりました。

さて今回は、畜産経営を営む上で悩みの種の一つである悪臭対策について、簡単に紹介したいと思います。皆さんは、悪臭と聞くとどのようなにおいを思い浮かべるでしょうか？生ゴミのにおい、卵の腐ったにおい、焦げくさいなど、人によって思い浮かべるにおいはそれぞれ違うと思います。また実際ににおいを嗅いだ時の感じ方も、人によって大きく異なります。これは、においを感じる感覚、すなわち「嗅覚」の個人差が大きく、同じにおいに慣れやすいという特徴があるからです。ここで注意して欲しいのは、農場で毎日同じにおいを嗅いでいる方は、そのにおいに非常に鈍感になっているということです。自分が農場でにおいを感じていなくても、周辺に住んでいる方はにおいを感じている可能性がありますので、十分に注意が必要です。

悪臭といっても様々なにおいがありますが、「悪臭防止法」では22種類の特定悪臭物質が指定されています。畜産現場で発生する特定悪臭物質は主に9種類あり、以下にその特徴を示しますので、参考にしてください。

### <畜産現場で発生する特定悪臭物質>

物質名	臭いの種類	
アンモニア	し尿のようなおい	
硫化物	メチルメルカプタン	腐ったタマネギのようなおい
	硫化水素	腐った卵のようなおい
	硫化メチル	腐ったキャベツのようなおい
	二酸化メチル	腐ったキャベツのようなおい
低級脂肪酸	プロピオン酸	刺激的な酸っぱいにおい
	ノルマル酪酸	汗くさいにおい
	ノルマル吉草酸	むれた靴下のようなおい
	イソ吉草酸	むれた靴下のようなおい

発生する悪臭の種類は、飼養する家畜の種類によって異なります。アンモニアは、糞と尿が混ざり尿素が糞中の酵素により分解されることで発生しますが、鶏は糞と尿を同時に排泄するため、養鶏業ではアンモニアが多く発生します。また、堆肥の切り返しや、家畜の活動が活発になる時間帯など、特定のタイミングで悪臭が発生しやすい場合もあります。このように、農場でどんな悪臭が、どのタイミングで発生しているかを把握することは、悪臭対策をする上で非常に重要です。

それでは、実際に悪臭を抑えるためにはどうすれば良いのでしょうか？残念ながら、畜産の現場に即した低コストで効果的な脱臭装置は現在のところありません。ただ、いくつかのポイントを守ることで、かなりの悪臭を抑えることができますので、是非実践して下さい。

### 1. 糞尿を早く分離する

前述したとおり、糞尿が混ざることでアンモニアが大量に発生します。このため、出来る限り早く糞尿を分離し、アンモニアの発生を抑えて下さい。

### 2. 糞を長期間堆積しない

悪臭は糞尿に含まれる有機物が微生物に分解されることで発生しますが、糞を堆積すると嫌気性微生物による分解（いわゆる腐敗）が進み、硫化水素や低級脂肪酸といった悪臭物質が大量に発生します。このため、糞は堆積せずに速やかに堆肥舎等の糞尿処理施設で処理して下さい。

### 3. 経営規模にあった糞尿処理施設を整備する

糞尿処理施設が経営規模に見合わない場合、処理できない糞が堆積され、悪臭が発生する原因となります。現在の処理施設の処理能力を正確に把握し、場合によっては施設を整備することも必要です。

### 4. 適切な糞尿処理施設の利用

経営規模にあった処理施設であっても、不適切な方法で利用すると悪臭が発生する原因となります。特に酸素不足は悪臭発生の大きな原因となりますので、堆肥舎であれば水分調整や切り返しをきっちりと行い、好気条件を整えるよう努めて下さい。

上述のとおり、悪臭の発生を防ぐためには、基本的な飼養衛生管理をきっちりと行うことが重要です。また「見た目でおう」ということもありますので、畜舎内を清潔にし、景観を整備することも非常に重要です。

悪臭は様々な場所で発生しているように感じますが、基本的な発生源は糞尿です。糞尿処理を適切に行い、少しでも悪臭が軽減されるよう努めて下さい。

気になることや不明な点がありましたら、最寄りの家畜保健衛生所までご相談ください。